

## 百間川背割堤暗渠の調査

ひゃっけんがわいち あらて せわりてい  
百間川一の荒手及び背割堤

岡山市中区中島

岡山県古代吉備文化財センターでは、旭川放水路（百間川分流部）改修工事に伴って、昨年度から百間川一の荒手及び背割堤の発掘調査を行っています。

百間川は、岡山城下を旭川の洪水から守るために江戸時代に造られた、流程約13kmの放水路です。旭川の洪水を百間川に導く分流部には、一の荒手（越流堤）を含む全長約1.3kmの背割堤が築かれています。今回は、その南端に位置する暗渠について、5月に実施した調査成果を紹介します。

調査は、背割堤（堤防）の下を横切る暗渠の、旭川側と百間川側それぞれの開口部を目指して掘り下げることから開始しました。その掘り下げ中、旭川側の開口部に石組みの門を検出し、続いて暗渠から旭川側と百間川側それぞれに延びる石積みの水路を検出しました。さて、開口部まで掘り下げると、今度は暗渠内部に50cmほど堆積した土砂を取り除く作業です。背割堤の天端から暗渠の底面までの深さは約4mです。こうして、暗渠とそれに付帯する施設の様子が明らかになりました。



旭川側の暗渠開口部（西から）



百間川側の暗渠開口部（東から）



旭川側の門の上部（北から）

検出した暗渠の規模は、長さ9.3m、幅1.5m、高さ1.14～1.38mです。底面には石敷きを施し、その標高は百間川側から旭川側へ向かって15cm低くなっています。天井には、方柱状に分割した16枚の石材を並べて架けています。これらは良質な花崗岩で、分割の際に鉄製のくさびを打ち込んだ矢穴が残ることから、石切場から運び込まれたものと考えられます。一方、側壁の石積みや底面の石敷きは、様々な大きさの花崗岩や閃緑岩の自然石を組み合わせていて、いずれも百間川の周辺で産出したものと考えられます。

旭川側の暗渠開口部の石組みの門は、堰板を落とし込むための溝を彫った石柱と、それと接ぎ合わせる加工を施した天井の石、堰板を受ける底石で構成されています。いずれも表面をたたいて平滑に仕上げた花崗岩を用いています。門は、洪水時に旭川からの水の逆流を防ぐためと思われます。

暗渠開口部から旭川へと延びる水路は、「ハ」字状に広がるとともに両壁の石積みが次第に低くなっています。暗渠底面から続く石敷きは、水流による洗掘を防ぐためと考えられ、門から4.2mまで敷設されています。百間川側の開口部へは、両壁に石積みを持つ水路が東から接続していますが、石敷きは見られませんでした。

さらに、暗渠の構築と背割堤との関係では、暗渠石材を覆う土と古い段階の堤体盛土が一体化していることを確認しました。

これらの成果から、暗渠は百間川側の農地から旭川へ排水する水路に伴うものであり、江戸時代に背割堤と一緒に築造された可能性が高いと思われます。このような石積みの用排水樋門は、かつては百間川の堤防下にいくつも見られたようですが、近年の改修工事で失われてしまいました。今回の調査は、百間川分流部の築堤に関する知見に加え、農業土木に関しても貴重な資料を提示できるものと考えられます。

（高田恭一郎）



百間川側から見た暗渠内部（東から）



天井の石材に残る矢穴



# 国道180号改築に伴う発掘調査V

## しんめい 神明遺跡

総社市福井

一般国道180号（総社・一宮バイパス）改築工事に伴う発掘調査も3年目を迎えました。昨年度までの調査で、総社市<sup>おしかべ</sup>刑部・福井周辺に弥生～古墳時代にかけて、大規模なムラがあったことが分かりました。本年度は、昨年<sup>どうたく</sup>に銅鐸の出土で注目を浴びた神明遺跡の調査をひき続き行いました。今回は、その調査成果を紹介します。

弥生～古墳時代では、竪穴住居23軒のほか、掘立柱建物、井戸、溝などが見つかりました。竪穴住居のうち3軒は、焼けて炭になった木材や焼け土が床に残る「焼失住居」と呼ばれるものでした。住居が燃えてしまった原因には失火などの火災のほか、移住などの理由によって、住んでいた人々が自ら焼き払った可能性もあります。炭になって残った木材は住居の柱や屋根などに使われていたものですが、大半の住居では残っていません。今回の発見は、当時の住居の構造や建築技術を明らかにするための重要な手がかりになると考えています。

そのほか、奈良時代の掘立柱建物4棟、平安時代の土坑墓<sup>どこうぼ</sup>3基なども見つかっています。写真右下は幅60cm、長さ110cmの長方形をした土坑墓です。この墓の中には人の頭と足の骨がのこっており、中央付近には土器の皿が供えられていました。

このように、神明遺跡では弥生～平安時代までの幅広い時期にわたり、この地域で人々が暮らしていた様子が明らかとなりました。

さて、3年にわたり行ってきた一般国道180号改築に伴う発掘調査も、今年9月でほぼ終了することになりました。今回紹介した成果はほんの一部なので、今後改めて報告を行いたいと思います！

（森本直人）



弥生時代後期の焼失住居（南から）



平安時代の土坑墓（南から）

婦本路2号墳は、佐伯長船線（美作岡山道路）建設に伴って平成19年度に発掘調査した横穴式石室を持つ古墳です。古墳が築造された時期は、石室内部の構造から古墳時代後期（6世紀後半）と考えられます。平成19年度の調査では、石室内部と墳丘の調査を行った後、工事範囲の確定まで石室を埋め戻して保存していました。このたび、天井石と横側の壁の一部に工事の影響が及ぶことが明らかになったため、4月に石室外側の記録を取るための調査を実施しました。調査では盛土の断面を記録して掘り下げ、天井石を露出させました。

今回の調査と平成19年度の調査と合わせて、石室の作り方が分かりました。まず地山を石室の大きさと形に合わせて幅3.7m、深さ1mほど掘り下げ、壁の石材を積み上げながら掘った穴との間を埋めていきます。さらに横側の壁の石材上2段分と天井石は盛土を積みながら置いていきます。この盛土は天井石の上に高さ0.8mほどが残っていました。天井石は幅1.1~1.6m、長さ0.6~0.9mの自然石を並べていて、隙間は10~20cm大の円礫で埋めています。（氏平昭則）



石室上面を調査中



天井石の露出状況

## 中世城館跡総合調査

平成25年度から始まった岡山県中世城館跡総合調査も3年目を迎え、昨年度末までに446か所の現地調査を行いました。その結果、東備地区では浦上氏による領国支配の拠点として配置された城郭群、吉備中央町では大勢力の間であって苦闘した伊賀氏の城館、岡山市では備中高松城の攻防をめぐる築かれた城砦群などの様子を把握することができました。

現在は、美作国東部の城館跡について現地調査を始めたところです。また、現地調査と並行して、城館に関わる文献史料や古絵図、地域に残る地名や伝承等も収集して調べ、これらの調査成果を報告書にまとめる作業も行っています。

このほか、平成25年度に行った調査やこれまでの発掘調査成果をもとに、東備地域の中世城館跡を中心に紹介したパンフレット「攻略！おかやまの中世城館 第一巻（備前国東部編）」を刊行しました。当センターホームページ、県内の図書館や公民館などで閲覧できますので、ぜひともご覧いただき、ふるさとに残る城館跡を訪ねて、その歴史的価値や魅力を再発見してみたいと思います。続編の「第二巻（備前国西部編）」については、たがいま編集中ですので、乞うご期待！（米田克彦）



パンフレット



## 平成27年度の企画展

4月21日（火）から10月18日（日）まで、百間川原尾島遺跡（岡山市中区原尾島）を紹介する企画展を開催しています。これは、県営住宅の建設に伴って平成23・25年度に実施した発掘調査の報告書（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告241、平成26年10月刊、A4版60頁）の成果を紹介するもので、百間川の改修工事にかかわる発掘調査の成果もあわせて、弥生時代の稲作や漁撈、手工業にかかわる出土品のほか、当時の地域間交流を物語る四国・近畿・九州産土器などを展示しています。

また、11月13日（金）から県立博物館において開催される「発掘された日本列島2015－新発見古速報－」と連携して、古墳出現前後の吉備で用いられた謎のうつわ－手焙り形土器の企画展を、10月20日（火）から4月24日（日）にかけて開催します。この展示をご覧いただき、どのような目的でつくられたのか分からないこの不思議な土器の謎解きに挑戦してみたいはかがでしょう。

（岡本泰典）



百間川原尾島遺跡から出土した遺物



手焙り形土器

## 東北の大地からの便り

震災発生から5年が経過した平成27年度は、国の定めた集中復興期間の最終年度にあたります。

今年度は防災集団移転促進事業・災害公営住宅建設事業に伴う調査のために、4月から宮城県南端に位置する山元町（やまもとちょう）の合戦原遺跡（かつせんはら）において調査協力をしています。

この遺跡では、古墳時代終末期～古代の横穴墓（よこあなぼ）と製鉄関連遺構が多数見つかっています。横穴墓からは銅製の馬具、金銅装大刀、鉄鏃と須恵器の杯や大甕、壺など多数の副葬品が出土しています。また、玄室壁面（げんしつ）に船、人物、鳥といった多彩な線刻画が描かれているものもあり、宮城県はもちろん東北地方でも希少な遺跡であることがわかってきました。製鉄関連遺構では、狭い丘陵斜面に木炭窯14基、製鉄炉2基などが密集しており、横穴墓の被葬者との関わりで興味深い発見です。

平成27年7月25日に現地説明会を開催したところ、県の内外から450名以上の方々の参加を得ました。参加者達は、斜面に口をあけた多数の横穴墓や密集した製鉄関連遺構の様子に圧倒され、線刻画に込められた先人の思いについて、夢をはせていたようです。（杉山一雄）



横穴墓見学風景



横穴墓出土遺物見学風景

# イベントのお知らせ

詳しくはホームページをご覧ください

## 津島やよいまつり

平成27年10月24日(土)・25日(日)

県総合グラウンド内に整備された国史跡津島遺跡<sup>つしま</sup>において、弥生時代の道具を使った稲の穂摘み<sup>ほむみ</sup>や杵すり、火起こし、勾玉づくりなどのほか、弥生土器の複製品を使ったパズルや当時の衣装を試着する催しを開催します。また、復原された住居や出土遺物を展示した博物館をめぐるクイズラリーも行いますので、ぜひ御参加ください。

会場 岡山県総合グラウンド(岡山市北区いずみ町)  
津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアム  
時間 午前10時～午後3時  
定員 なし(混雑時は制限あり)、参加費無料



弥生人に扮して記念撮影

## 大地からの便り2015

平成27年11月21日(土)

県内で最近話題となった、総社市神明遺跡<sup>しんめい</sup>、美作市鍛冶屋<sup>かじや</sup>古墳群<sup>こぼんぐん</sup>、岡山市北区鹿田遺跡<sup>しかた</sup>、岡山市中区百間川<sup>ひゃくまがわ</sup>一の荒手<sup>あらくで</sup>、高梁市備中松山城跡<sup>びっちゅうまつやま</sup>の調査成果を映像を使って紹介する催しで、出土遺物もあわせて展示します(11月13日～12月23日)。

会場 岡山県立博物館(岡山市北区後楽園)  
時間 午後1時30分～4時30分  
定員 140名(申込不要、当日先着順)



鍛冶屋古墳群(西から)

## いざ出陣! 山城探検隊

平成27年12月12日(土)

中世の山城を訪ねて、城のつくりや歴史を学びます。

会場 <sup>かながわ</sup>金川城跡(岡山市北区御津金川、予定)  
時間 午後1時～4時  
定員 30名(申込期間11月6日～24日、申込多数の場合は抽選)



昨年度の様子(備前市三石城跡)

## 講演会「吉備の弥生文化と青銅器」

平成28年1月23日(土)

田崎博之 愛媛大学埋蔵文化財調査室長と難波洋三 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長を講師に、弥生文化が伝わったころの吉備地域の様子や銅鐸のまつりについて、最新の研究成果を紹介します。

会場 岡山県立図書館(岡山市北区丸の内)  
時間 午後1時～4時  
定員 120名(申込期間12月9日～1月6日、申込多数の場合は抽選)



銅鐸出土状況(総社市神明遺跡)



# センターホームページのご案内

センターでは、平成16年にホームページを開設して以来、これまで、のべ35万人の方にご利用いただいています。センターの紹介や利用案内はもとより、現在行っている発掘調査の情報や調査成果をまとめた特集記事、刊行物・普及啓発イベントの案内など盛りだくさんの内容となっています。ぜひ一度、ご覧ください。



最新の情報を掲示しています。ほぼ毎週更新していますので、随時ご覧ください。

センターの施設見学や出土遺物・調査記録等の熟覧・借用の申込はこちらから。

津島やよい広場や遺跡&スポーツミュージアムの解説案内や体験学習はこちらからお申込ください。

昨年、総社市神明遺跡から発掘された銅鐸の情報をまとめています。

県内の弥生遺跡から出土した1万個もの古代モモを紹介するコーナーです。

謎の古代山城と呼ばれる史跡鬼城山の調査成果を紹介しています。

発掘調査の成果をもとに、吉備の古代史を解き明かす連載です。いずれも、発掘に携わる調査員が執筆した読み応えのある内容となっています。

現在行っている発掘調査の様子を紹介するコーナー。現地説明会の資料もご覧いただけます。

今年度で開催するイベントの情報はこちらをご覧ください。

センター刊行の発掘調査報告書やパンフレット、遺跡マップ、所報などを閲覧できます。

メールマガジンにご登録いただくと、発掘調査やイベント、刊行物などの最新情報をその都度お届けします。

県内にある遺跡の位置や内容を簡単に調べることができます。

平成25年度から進めている中世城館跡総合調査の情報を公開しています。

東日本大震災の復興調査を支援する派遣職員からの便りを掲載しました。

センターホームページのトップページ

# センター収蔵品紹介 vol.18 一土井遺跡出土埴輪一

## 窯跡に置き去られた埴輪「盾持ち人」

埴輪には、古墳の縁や段のところに立て巡らされた円筒埴輪と、棺を埋めた上などに置かれた形象埴輪と、2種類があります。

円筒埴輪は、土管にたがを貼り付け、何個かの穴を空けたような簡素な作りです。死者の眠る区域を示すものであったと考えられています。

一方、形象埴輪には、人物や動物を表現したものや、家をはじめとする家財道具から各種の武器を模したもので様々な種類があります。人物の埴輪というと、年配の方には映画「大魔神」を、若い方には公共放送のキャラクター「はに丸」を思い起こしていただけるでしょうか。どちらも甲冑を着けた武人の埴輪です。武人は男性ですが、巫女や楽器を弾く女性などもおり、家財形の埴輪とともに、墓の上に生前の暮らしぶりを再現したかのように立てられます。彼らの衣服や持ち物は、まさに当時の風俗を写しています。

さて、この「盾持ち人」はどうでしょうか。体は円筒埴輪のように作られ、首を細くして、顎が表現されています。粘土で鼻・眉・耳を作り、目と口を横長に切り取って、細く空けた耳の穴の下には耳輪を付けています。頭は開口して、帽子や髪型の表現はありません。体に手足はなく、22×25cmの盾を掲げていますが、文様は刻まれていません。人が持たない「盾形」の埴輪も含めてほとんどの盾には多彩な文様が描かれる中であって、これは珍しく質素な盾持ち人です。

この埴輪は、美作岡山道路に伴う平成14年の調査により、赤磐市可真上の土井遺跡から出土しました。古墳ではなく、埴輪を焼いた窯跡で見つかったのです。県内の埴輪窯跡は後にも先にもこの1か所で、須恵器窯のように斜面に縦方向の2基が確認されています。盾持ち人は、窯の焚き口近くに積み上げられた失敗作の中に横たわっていました。写真でも、腰をゆがめ、首を傾げているように見えますが、くわえて頭自体も歪んでいるのです。彼は、窯出しの際に不良品としてここに捨てられ、主のために墓守の役を果たすことはありませんでした。（光永真一）



盾持ち人



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分

JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。